



河治明恵美(新潟市 平面)
新潟市生まれ、女子美術大学芸術学部美術学科(洋画)卒業。2000年新潟市美術展にて新潟日報賞受賞。2017年、弥彦・野外アート展(出版)。



松元那女子(新潟市 写真)
奈良県生まれ奈良育ち、口癖の何気ないものの中で起る偶然を収集している。2020年2月に奈良・当麻1画ARTにてグループ写真展「生命」に参加。同年4月長岡で「生」展を始める。



杉崎那朗(新潟市)彫刻
新潟市生まれ。魚田浜にキラリ兼アトリエを構え、鉄の溶接による人体彫刻を中心に制作活動をおこなう。溶接業に従事し、工業製品に用いる溶接と造形表現に用いる溶接の融合を目指す。



川村 翠(上越市)絵画
上越市生まれ。主に「水」と「光」をテーマに制作。2021年「上越の次世代作家を見つける展」公募展(大島画廊/上越市)にて受賞。東京銀座、新潟などで2人展、グループ展。



望月千晁(上越市)油彩画
妙高市生まれ。2013年多摩美術大学卒業、2020年上越教育大学大学院(美術)修了。アリュウ・ギャラリー(東京)にて個展2回。2023年The Garden展(アリュウ・ギャラリー)。



鶴水亜里沙(三条市)切り絵
会津若松市生まれ。2014年長岡造形大学卒業。2018年からカレキチンPandora(三条市)に作品を常設。他、私設図書館いとなみ(西会津町)にて展示。



手塚千晴(新潟市)立体
上越市生まれ。風景や自然現象を主なテーマとして木彫作品を製作。2020年より「中庭」を題した3人展4回。2023年彫刻村50年の軌跡(愛知県美術館)他、グループ展多数。



なぎまいこ(三条市)現代アート
三条市生まれ。長岡造形大学造形学部卒業。2011年渡仏。フランス語、芸術を学ぶ。クレパス画を通して心象風景を顧みる創作とインスタレーションを意識した制作を行う。



野坂衣織(長野県濃町)絵画
糸川川市生まれ。近年の個展:2020年 maison de たびのそら屋の喫茶室(長岡市)、2022年GALLERY ART POINT bis(東京・銀座)、2023年DORADO GALLERY(東京・早稲田)。



新田紘平(埼玉県志木市)現代アート
新潟市生まれ。2017年長岡造形大学造形学部美術・工芸学科卒業。2019年長岡造形大学大学院前期修士課程美術・工芸領域修了。埼玉県を拠点にして活動している。



田中詩穂(上越市)身体表現
6歳よりモダンバレエを岡延子に師事。クラシックバレエダンス、ダンス、舞踏を経験。大学・大学院にて身体表現を研究。卒業後も創作活動を続ける。



渡邊蓮(ハスノネ(新潟市))身体表現/絵画
新潟市生まれ。新潟大学教育学部芸術環境創造課程造形表現コース卒業。絵を描く「エッセイ」として新潟東京のワークショップや公演に出演する。



頼所康則(燕市)イラストレーション
燕市生まれ。2019年11月5日にキリスト教の洗礼を受け、介護の仕事をしなから「じかさん」の名で絵を描き続けている。



土屋志志(新潟市)ドローイング
新潟市生まれ。ひとつ人物や動物を置き、そこに様々な描線を重ね得たの知れないイメージが浮き立つのを待ち、衝動性を大事にして描く。2020年「限界芸術の本懐」4人展(NSG美術館)参加。



nezi(加茂市)イラストレーション
三条市生まれ。加茂市を中心に活動。「ラクガキ作家・ネジのヘンテコな世界を楽しんでもらえたら嬉しいです」(作家談)

●身体表現のパフォーマンス(田中詩穂、渡邊蓮)
第1回公演/3月17日(日) pm17:00~ 第2回公演/3月24日(日) am11:30~
いずれも2人合せて30分程度。観覧無料

新しい世代のクリエイターの多様な「表現」エックスを探って

エックス展 vol.13

会期:3月17日(日)~3月24日(日)/月曜休館 入場無料
11:00~17:00/土曜・日曜・祝日は10:00開館(最終日は15:00に終了します)
会場:長岡市美術センター(長岡市中央図書館2階)

若い世代の織りなす表現から未知数の可能性(=エックス)を探りたく2010年にスタートした「エックス展」は、このたび第13回展となりました。今年はシリーズ初参加の4名を含む、新潟に関わりのある15名が出演します。また今回初めての試みとしてゲスト作家(魚沼市在住現代アーティスト・サトウアキヒサ)を招きました。氏からは1ブースを広く使った個展スケールでの展示をおこなってもらい、エックス展とのコラボレーションを図ります。それぞれの手法や感性で繰り広げられる多様な表現をどうぞお楽しみください。(展覧会コーディネーター:外山文彦)



エックス展vol.13 特別企画/同時開催 サトウアキヒサ展

●平面作品のほか壺を活用しての立体、記憶を封入するように瓶詰した作品等未発表作・新作を中心に展示します。

サトウアキヒサ

1960年新潟県湯之谷村(現・魚沼市)生まれ。
1979年新潟県美術展覧会(長岡市厚生会館)、1986年自由美術展(東京都美術館)の出演を経て、1987年に長岡現代美術館跡地へ新潟県下の現代美術作家を集結させた企画「新潟現代美術32人展」に参加(旧長岡現代美術館、当時の長岡商工会議所美術文化ホール)。
1987年からアトリエ我廊、Zen、小出郷文化会館、mu-an、ギャラリーdotONEなど新潟市・長岡市・魚沼市他で個展30回。
近年(2012年以降)の主な作品発表として、2012年「GUN-新潟に前衛があった頃」(新潟県立近代美術館)、2018年「ドローイングの現在-創造の生まれる所」(ギャラリー湯山/十日町市松之山)、2022年「越後妻有国際メールアート展(大地の芸術祭/ギャラリー湯山、奴奈川キャンパス)、2022年佐藤昭久展「時の記憶」(ギャラリー沙蔵/長岡市)、2023年「FINAL」(ギャラリー湯山)

